

★\*.....\*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリィマンの物語」～感謝の風船ラブレター～

2014.07.19 vol.29

★\*.....\*★

---

☆ご あ い さ つ☆

---

皆様、ご無沙汰しております。

夏本番を前に、台風や厳しい暑さに見舞われましたが、  
お元気でお過ごしでしょうか？

この一ヶ月間、私の執筆活動の都合により、  
メールマガジンの配信を休止しておりましたが、  
本日より再開させていただきたいと思います。

引き続き、世の中でご活躍されている  
素晴らしいスターリィマンの皆様方を  
ご紹介してまいりたいと願っております。  
是非、今後とも宜しくお願い致します☆

それでは、「今を生きるスターリィマンの物語」の  
第10話 百良伽藍オーナー 淵辺 美紀氏の  
メールマガジンをお送りさせていただきます。

最後までお楽しみいただけると嬉しいです。

---

☆第10話 沖縄の架け橋になり公に生きる☆  
百良伽藍オーナー 淵辺 美紀 氏

第1章 ～淵辺美紀氏との出会い～

---

私たちが、淵辺美紀さんと初めてお会いしたのは、  
2008年2月14日。バレンタインデーの夜でした。

都内で開催した「愛を歌い語るスターリィマンの世界」のイベントに  
遠い沖縄から、わざわざお越しくくださったのでした。

このイベントは、オペラユニット「レジェンド」の5人が、  
スターリマンの物語を映像に合わせて、  
オリジナルの歌と語りで表現したステージで、  
会場内には、スターリマンの原画作品も複数点展示しました。

ステージが終わると、淵辺さんは原画作品の1点1点を、  
本当に丁寧にご覧いただき、感慨深そうに見つめていました。

そして「すばる」という作品の前では、ハンカチで涙を押さえながら、  
しばらくただ黙って考え込んでいらっしゃいました。

そんな様子を少し離れたところから見守っていた私たちに  
お気づきになった淵辺さんは、恥ずかしそうにほほ微笑みました。

そして、私が近づくと淵辺さんは私をそっと抱きしめ、  
「芳見さん、スターリマンにはこれから大きなお役目があるわね。」  
とおっしゃって、また、一筋の涙を流されました。

別れ際、「沖縄にいらっしゃる時は、必ず知らせてね。  
また、お会いしましょう！」とまるで女神様のような微笑みで、  
私たちを包み込んでくださった淵辺さん。

その2カ月後の4月18日。  
約束の再会をを果たすために、3人で沖縄へ向かいました。

この翌年の2009年は、夫・はせがわいさおの  
絵画活動30周年の節目の年で、  
スターリマンの作品を通して世の中に貢献するために  
どのように活動したらよいか  
模索していた時期でもありました。

夫は、1996年～2006年までは、  
あるアート事業会社に版画作家として契約し、  
日本各地のホテルやデパートなどで  
展示会を展開していただいていた。

きっかけは、1995年の阪神淡路大震災の  
復興支援のためのチャリティー絵画展に  
参加させていただいたことでした。

週末や祝日は、北は仙台から南は沖縄まで各地の展示会でサイン会。ウィークデーは次の展示会やオーダーいただいた絵の制作という日々が、10年間続きました。

契約会社からの要求で、「描きたい絵」ではなく「売れる絵」を描かなければならなかったり、

お客様のご要望であれば、同じ絵柄の作品を何枚も何枚も描く必要がありました。

たとえ同じ絵柄でも、お客様にとっては世界でたった一つの大切な作品です。

せめてタイトルとお話だけは変えようと私は、何十、何百という作品すべてにそれぞれのお客様への思いをこめて、一作一作違うタイトルとお話を創りました。

腱鞘炎になりながらも、絵を描き続けていた夫。

もちろん毎回の展示会で素晴らしい出会いや心温まる感動の出来事もたくさんありましたが、創作の喜びもなく、ただこなすだけの日々に疲弊し、いつしか私は疑問を持つようになりました。

「これがあなたが大学の就職の推薦を断ってまでやりたかった画家の夢ですか？」と。

そんな日々に終止符を打ったのは、2006年1月。夫の絵に私がお話を創り、娘が装丁デザインして出版したコミュニケーションアート「夢」の本の出版が大きな転機となりました。

夫は版画作家を辞めて、夫と娘と私の三人で、スターリィマンの作品を通して、みんなの心と心を温かくつなぎながら少しでも世の中に貢献出来るような作品の創作や活動をしていくことを決心しました。

その後、生活は一転。左も右も分からずに、  
ただただ可能性を信じて色々な形を模索するばかりで、  
出口の見えない苦しい状態が続きました。

そんな時に、淵辺さんと出会って、  
大きな役目があると言っていたことが、  
私たちの心の支えとなり、大きな勇気となりました。

淵辺さんにお会いするために降り立った  
沖縄の空は、青く澄み渡り、海は、やさしく温かく  
初めてだった私は不思議と懐かしく思いました。

夫は版画家時代、かれこれ10年以上前から  
年2〜3回は展示会で沖縄を訪れていましたが、  
久しぶりの沖縄は、格別な思いがあったようです。

淵辺さんは、私たちが宿泊するホテルまで、  
お車で迎えに来てくださいました。

淵辺さんが車から降りられると、ボーイさんだけでなく、  
フロントにいたホテルの支配人の方も  
急いでご挨拶に出ていらっしやって  
私たちはただただ驚くばかり！

実は、私たちはまだこの時、  
淵辺さんがどんなお仕事をなさっていて、  
どのようなお立場の方なのか、  
詳しくは存じ上げていませんでした。

戸惑う私たちに淵辺さんは、  
「芳見さんたち、お乗りになって！」と  
やさしく声をかけてくださいました。

車に乗ってすぐ、  
「今日はお三人を絶対お連れしたい所があるから、  
遅くなってもお付き合いくださるかしら？」  
との素敵なお提案が。

「はい、もちろんです！」  
こうして、一生涯忘れられない  
素晴らしい沖縄一周の一日が始まりました。

車窓から美しい海を眺めながら  
色々なお話をさせていただいたり、  
水族館などに連れて行っていただき、  
あっという間に時間が過ぎて行きました。

夕暮れ間近になり、淵辺さんが  
最後に連れて行ってくださった場所に到着すると  
夫が「この風景を前に描いた事がある！」と  
興奮気味に話し始めたのです。

それは、版画家だった2002年9月の事。  
デパートさんの企画で、沖縄の名所を巡り  
スケッチした作品を飾る展示会がありました。

しかし、運悪くちょうど台風が沖縄を直撃して、  
3日間で沖縄を巡り描く計画が、  
1日で作品を仕上げなくてはならなくなりました。

タクシーの運転手さんに首里城周辺を回っていただき、  
必死の思いで何とかスケッチを仕上げていきましたが、  
どうしてもあと1作品だけ描く場所が決まりません。

「沖縄らしい原風景のところに連れて行ってください」と  
運転手さんをお願いして、連れて行っていただいた所が、  
南城市のグラスボートある新原ビーチの近くでした。

夫は、タクシーの運転手さんが連れて行ってくれたので、  
もう二度いけない所だと思っていたのですが、  
何と偶然にも淵辺さんが私たちをご案内したいと  
思ってくださっていた場所だったのです。

驚く偶然はそれだけではありませんでした。  
この場所の絵を夫が描いたのは2002年9月6日。  
その一週間後に、淵辺さんとご主人はこの場所を訪れて、  
ここにホテルを建てることを決意したそうです。

お互いにほとんど同時期にここを訪れ、  
夫がスターリィマンを描いた場所が  
淵辺さんご夫妻の夢のホテルになるなんて！

なんと不思議な巡り合わせ、ご縁でしょうか？

それから約4年後の2012年4月。  
私たちの思い出の場所に「百良伽藍」がオープンしました。  
<http://www.hyakunagaran.com/index.php>

目の前には、キラキラと輝く穏やかな海が広がり、  
神の島・久高島も望めます。  
そこにいるだけで神聖な海風に乗って、  
幸せが運ばれるような清らかで安らかな空間。  
<http://www.hyakunagaran.com/photo2.php>

沖縄の伝統建築を用いた緑豊かで格式の高い  
本当に素晴らしいホテルとして生まれ変わりました。

淵辺さんは、出会った時から、  
私たちのスターリィマンになって  
上甲晃先生や致知出版の藤尾社長をはじめ、  
他にも私たちの活動を真心で支えてくださる方々を  
ご紹介してくださいました。

淵辺さんが、ご縁をつないでくださらなければ  
今の私たち三人の姿はないと言っても、過言ではありません。

そして、「芳見さん、だめよ」と  
いつも厳しく心温かく、戒めてくれて、  
どんな時も私を励まし支えてくださる  
お姉さんのような存在です。

こんな素敵な女性になりたい。  
こんな素晴らしい心を持ち続けたい。  
私の憧れの人です。

淵辺さん、出会ってくださって、  
本当にありがとうございます。

淵辺さんが少しでも笑顔になって  
喜んでいただけるようなご報告が出来るように、  
さあ！今日もがんばりますね。淵辺さん。

---

「今を生きるスターリィマンの物語」  
☆第10話 沖縄の架け橋になり公を生きる☆  
百良伽藍オーナー 淵辺美紀 氏

第2章は、7月29日(火)配信予定です！

---

淵辺美紀氏との出会いは、いかがだったでしょうか？

出会いは、偶然ではなく、必然であり、  
出会うべきタイミングで、必ず出会える。

しかし、目に見えない心の糸を結べるかは、  
それぞれが、目の前のご縁をどのように捉えるかで決まるのですね。

私たちに大切なメッセージを投げかけてくださっている  
多くの出来事をこれからも真摯に受けとめて生きたいと思います。

さて、今回は、第10話の第2章として、  
淵辺美紀氏の家族の原風景をお送り致します。

配信は、7月29日(火)となります。  
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

---

☆後 記☆

---

私が執筆活動の山場を迎えていた今月初め、  
祐希が単独で活動して来てくれました。  
<http://starryman.cocolog-nifty.com/>

今週15日(火)には、久しぶりに三人で  
福島市の2か所の保育園さんで、  
「福島キワニスクラブ」の皆様とご一緒に  
紙芝居の寄贈とライブを行ってまいりました。

「福島キワニスクラブ」さんは、  
福島県内の子ども達に絵本の寄贈活動を毎年行っており、  
この度は、福島市内の43か所の幼稚園、保育園さんに、  
スターリィマンの紙芝居を贈呈いただきました。

15日の午前中は「福島隣保館保育所」さんにて、  
福島市役所の健康福祉部長様や  
同部児童福祉課課長様がお出席の中、贈呈式が行われました。

午後は、2011年10月に「ら・さんたランド」さんを通して  
ご縁をいただいた「南福島保育園」さんに再訪問。  
年長さんになった子ども達の中に数名、  
スターリィマンのことを覚えていてくれた子がいました！

帰宅後、「福島キワニスクラブ」さんの事務局の方から、  
「是非今後とも、福島のごども、東北復興の為に  
ご支援の程よろしく願いいたします。  
また福島に来る際にはご連絡ください、お待ちしております。」

とメールをいただき、有り難いご縁とお力添えに  
三人で温かい気持ちでいっぱいになりました。

そして、17日(木)は、武蔵一宮氷川神社の権禰宜さんと共に  
広島県呉市に行って参りました。

小村市長様には、お忙しい中、1時間余りもお時間をいただき、  
色々なお話をさせていただきました。

小村市長様とは、3月に開催したISFネットの渡邊代表と  
大久保寛司氏との講演会にお出でいただいた事がご縁でしたが、  
他にも共通のご縁でつながっている事を知り、とても嬉しくなりました。

その後、大和ミュージアムの総括学芸員の相原氏に、  
半日かけて館内の展示を丁寧にご案内いただきました。

呉市にあった呉海軍工廠は、  
明治時代より日本の造船技術の発展を担い、  
一番名の知られている戦艦大和以外にも  
終戦により解散するまで、  
133隻の船を造船してまいりました。



戦艦大和については、映画や小説など  
様々なカタチで現代に伝えられていますが、  
そこでは描かれきれていない戦時中のお話を  
相原氏から詳しくご説明いただいて、  
私は涙が止りませんでした。

実は、私の父の兄、つまり私の伯父は、  
海軍一等兵として、ここ呉の港より出航し、  
昭和17年のソロモン諸島沖の戦いで、戦死しました。

今回、呉市にお伺いさせていただく事を父に伝えると、  
「兄さんが戦地に行く前に最後に発った場所だ」と、  
とても喜んでくれました。  
父にとって、伯父はかけがえのないスターリィマンなのだと言葉少ない父の想いに、胸がいっぱいになってしまいました。

来年で終戦から70年。  
未だに様々な議論が交わされていますが、  
この日本のために、尊い命を捧げてくださった  
たくさんの先人たちがいたという事を  
私たちは決して忘れてはいけないと思います。

そして、皆様が命懸けて守ってくださった  
今の日本に生きる私たちが、今度は次の世代に  
平和な世の中をつなぐために生きていかなければと思います。

それでは、皆様、最後までお読みいただきまして、  
誠にありがとうございました。  
本日からの三連休、場所によっては天候が崩れる予報ですが、  
どうか有意義にお過ごしくださいませ。

はせがわ芳見

---

発信元：はせがわ芳見  
〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2  
TEL/FAX：048-671-7708  
HP：http://www.dream-hasegawa.com  
blog：http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/

---

★\*.....\*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリィマンの物語」～感謝の風船ラブレター～

2014.07.29 vol.30

★\*.....\*★

---

☆ご あ い さ つ☆

---

暑中お見舞い申し上げます。  
皆様いかがお過ごしですか？

先週23日に大暑を迎え、本日は、土用の丑の日。  
暦通り、連日猛暑が続いています。

この厳しい暑さに負けないように  
鰻で滋養をつけて、無病息災で乗り切りましょうね！

さて、本日は「今を生きるスターリィマンの物語」の  
第10話 百良伽藍オーナー 淵辺 美紀氏の  
第2章 ～家族の原風景～をお送りさせていただきます。

最後までお楽しみいただけると嬉しいです。

---

☆第10話 沖縄の架け橋になり公に生きる☆  
百良伽藍オーナー 淵辺 美紀 氏

第2章 ～淵辺美紀氏の家族の原風景～

---

---

Q1. 淵辺美紀氏のご家族のことを教えてください。

---

私は、大正12年生まれの父の難波常次郎と  
昭和2年生まれの母のサチ子の次女として、  
鹿児島で生まれました。

姉と二人の弟の4人兄妹です。

父は鹿児島で26代続く家柄でした。  
ご先祖には島津藩の高官もいまして、  
武家屋敷に実家はありました。

二言目には、「まっすぐに生きる」が父の口癖でしたね。  
お酒を飲んでいて、酔っぱらっている時でも  
まっすぐにしろと言う父でした。

また、これから日本はどうなるんだとすごく気にしていて、  
たまに、実家に帰ると、話すことは日本のことでしたね。

今は亡くなっておりますが、私にとっては  
とても影響力が大きかった父でしたね。

母の実家は白薩摩の陶芸家の家柄でした。  
昔ながらの母で、今もそうですが、人の悪口は言わない。  
耐える人でした。

幼い時の私は、活発でお利巧さんだったと思います。  
児童会や生徒会では、副会長をしていました。

10月6日のてんびん座で、バランスが取るのが上手かったと思います。

父と姉が喧嘩をしていると、こっちがこうだからと間に入って、  
まあまあとやっているような子供でした。

---

Q 2 . 洲辺美紀氏が現在に至るまでの経緯を教えてください。

---

私は18歳で東京に出て、全日空の stewardess をしていました。  
その時に、すごく素敵な女性に出会いました。

今から30数年前。  
東京と大阪間の飛行機に乗ることが出来るのは、  
ある一種の限られたビジネスの人達でしたが、  
その飛行機に定期的に乗られていた女性。

当時50歳前後かと思います。

いつもしっかりと身繕いをされて、  
冬はミンクのコート、見るからに素敵な女性でした。  
立派な指輪をつけられていて、女性のトップにいるような方でした。

機内でお会いすると、20代の私にも、  
「ありがとう」「お疲れ様」「大変ね」「今日は良かったわ」と、  
必ず一言お声をかけてくださって。

はるかトップの女性の方が、20代のまだまだ人生経験の浅い私に、  
女性として色々とお声をかけてくれたこと。  
こう言う女性になりたい！と、そこですごく印象つけられました。

30年前以上も前のことですから、  
その方はもう今は生きていらっしゃるかどうか分かりませんが、  
でもその方の出で立ち、雰囲気とかは今でも脳裏に出てきますよ。

女性としての姿、一個人としての人間としての  
相手が誰であれ、周りに対する気配りだったり、  
人を励ます存在だったり。  
その方が、私のにとっての初めての目指す姿だったですね。

それから、一時期テレビに出ていた時がありました。

その時にゲストの方がスタジオにお呼びした時に、  
表の顔（テレビに映っている顔）と、裏の顔（映っていない時）が、  
違うことがいかに多いことか。まざまざと知らされました。

ブラウン管に出ている時は本当に素敵。  
カメラを外した時は別人。  
人を欺くようなスタイルって、あまり良くないなあ。  
美しくない！と思いました。  
ある一種の美学みたいなもの。  
そういったところにも感じてしまうんです。

漠然としてますが、こういう人になりたい！みたいなものが  
独身時代のあらゆる経験からつくらてた感じがしますね。

その後、26歳の時に結婚をしました。  
主人も私も鹿児島で一生を送るのだと思っていましたが、  
子どもが生まれてすぐに、主人が沖縄の会社の再建をすることになり、  
赤ん坊の長男を連れて、ボストンバック一つで、沖縄に来ました。

アパートを借りて、とりあえず二人分の食器を買って。  
主人は朝6時位に出て、帰って来るのは夜中の1時、2時でした。

再建ができれば2～3ヶ月で帰れるのかなと思っていたんですが、  
半年経っても帰れなくて。

沖縄で知っている人は誰もいなかったし、  
近所の人とお付き合いもなくて。  
全日空の知り合いに会わないようにと隠れたりした時もある。  
本当に心細く、みじめな生活をしました。

8か月ぐらい経った時に、お店の人に、  
「頭を隠した方がいいですね」と言われて、  
初めて円形脱毛症になっていることに気がついたんですね。

もう私はダメになると思って、ようやく引っ越しを決意しました。

それから間もなく、主人は再建ができたのですが、  
なぜ倒産した会社がたくましく成長したのかという  
ちょうどその頃、オフコンからパソコンの移行期で、  
大型コンピュータではなく、細かくデータを取れるようなパソコンを入れて、  
瞬時に数字がどうなっているかが分かったから成功したんです。

私も右も左もわからない所から、ワープロ買って、パソコン買って、  
NHKの通信講座で簿記を習って、売掛金って何？棚卸って何？  
社会保険金って何？顧客台帳ってどうするの？  
私が30歳位の時でしたね。

それから1～2年は他の会社で見よう見まねで勉強しまして、  
32歳の時に法人化して「ビジネスランド」を設立しました。

ビジネスランドでは、パソコンの指導だったり、  
人材育成や人材社員教育、人材派遣などを行っています。

途中で飲食の会社を始めました。今は50店舗ぐらいになりまして、  
その延長でこの百良伽藍のホテルもつくりました。

この過程で色んなご縁があって、そのご縁の中で  
良いと思う方とはやっぱりこちらも意識して、ご縁をつなぐし、  
たぶん波長が合う方とは、ずっとつながっていくし。

職種は違って、見ているところは一緒で、  
少なからず、我欲とか、私、私という、  
それがある以上は、良い事はできないかと思ひますし、  
良い影響力も与えられないんじゃないかと思ひます。

私を離れて、周りが幸せになれば、が共通項なのだと思いますね。

私が親しくしてきた人たちは、公に生きる方です。  
そのお一人が上甲晃先生であり、桜井よしこさんであり、  
また、一緒に目指してきた県内の友人の副知事だった安里カツ子さん。  
彼女とは同じ思いでしたけれどもね。

結婚をして、子どもを産んで、会社をつくって、  
一時期、お姑さんと同居したり、人並みの苦勞もしました。

今、思えば全部良かったと思ひます。  
色んな経験をしたから、人の気持ちもわかるわけじゃないですか。

つらい時に誰かに声をかけられたりすることが、  
その人にとってどれだけ励みになるかが分かるですよ。

仕事も一からはじめて、何もわからなかったけれど、  
すべて自分でやってみて、苦勞して努力してやって来たからこそ、  
今に活きているし、自分でやってみないとわからないし、  
自分でやってきたことは、ある程度は人にも  
ちゃんと責任を持って伝えられますね。

少なくとも今できることをやらないと必ず後悔するし、  
今できることをすることで、次につながるということ。

私自身もそういった意味で、自身も幸せでありたいし、  
一人でも周りの人が幸せになってくれたら嬉しいですね。

---

Q 3. 瀨辺美紀氏のこれからの夢を教えてください。

---

これからの私の役目として、女性の育成を意識しています。  
私も60代になって、素敵な70代、80代の方々がたくさんいらしゃるのですが、  
残念ながら、その下がみえません。

女性が仕事をするという環境は、ここ20～30年のことで、男女雇用均等法ができた今でも、男女がどうのこうのと言っているということは、まだまだなんですね。

私が全日航に入ったころは32歳が定年でした。それを思えばはるかに環境は変わりましたけど。

社会に出れば、不慣れなこともあったり、結婚をすれば、教育とか子育てとか、介護とか、どうやったら上手く家庭と仕事の両立出来るのか悩んでいる人がたくさんいるのも事実です。

そんな女性が存分に動ける環境をつくれたらというのが、今の私の夢ですね。

どう女性として、人として生きるかは、女性として同じモデルが大切です。

そんな女性のモデルの人にならたらと思います。私が20代の時、出会った素敵な女性のような・・・

女性たちが能力がある以上、その能力が発揮できて、どうやって可能な限り、意欲ある限り、社会とバランスがとれた形になっていけるかが、これからはもっと大事になる時代だと思います。そういった女性の後押しをしたいなあと思っています。

それと架け橋的なもの。海外と沖縄をつないだり、沖縄と本土とかをつなぐことが、私の大事な役割だと感じています。

そう思ったら、色々な話がどんどん来るんですね。

例えば、海外では、沖縄ラオス協会会長をはじめ、ポーランド、韓国、インド、香港、台湾、アメリカとの役員をしています。

話があるということは、やれということでしょうね。来なくなった時には、この仕事はおしまいということ。お役目がある限り、引き続き行っていきたいと思います。

---

Q 4. 湊辺美紀氏にとってのスターリイマンは誰ですか？

---

私のスターリイマンはたくさんいらっしゃいますが、  
公に生きている上甲先生や桜井よしこさんですね。

---

「今を生きるスターリイマンの物語」  
☆第10話 沖縄の架け橋になり公を生きる☆  
百良伽藍オーナー 湊辺美紀 氏

第3章は、8月9日(土)配信予定です！

---

湊辺美紀氏の家族の原風景は、  
いかがだったでしょうか？

ご自身に訪れる数々の試練から目を背ける事なく、  
常に誠実に、お役目を果たされ、尽くしてこられた人生。

いつも美しく輝いていらっしゃるその背景を、  
今回インタビューをさせていただいた中で、  
深く知ることが出来て、本当に有り難く思いました。

私にとって憧れの存在である湊辺さん。

今後、湊辺さんが志されている女性の応援、育成に対して、  
私も何かお役に立つ事が出来ればと胸が熱くなりました。

さて、今回は、第10話の第3章として、  
湊辺美紀氏のスターリイマンに宛てた  
感謝の風船レターをお送りさせていただきます。

配信は、8月9日(土)です。  
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆



---

☆後 記☆

---

今週末からいよいよ8月。  
8月5日は、大阪新阪急ホテルさんでのイベントが開催されます。  
<http://www.dream-hasegawa.com/about/event.html>

お忙しい平日にも関わらず、  
お出でいただける皆様方の有り難い応援に  
心から感謝の気持ちでいっぱいです。  
本当にどうもありがとうございます！

尚、すでにイベントのお申し込みが  
ホテルさんのサイトから出来なくなっております。  
もし、ご来場をご検討されている方がおられましたら  
このメールにご返信くださいますようお願い致します。

またイベント前日は、湊辺さんからいただいたご縁で  
神戸の三ノ宮のとある会合に参加させていただき、  
そして、イベント翌日の6日は、京都の方に  
お伺いさせていただくご縁をいただいております。

また皆様によいご報告がお伝え出来るよう、  
笑顔でがんばりたいと思います。  
どうか皆様の毎日も笑顔でありますように☆

それでは、本日もお読みいただきまして  
誠にありがとうございました。

はせがわ芳見

---

発信元：はせがわ芳見  
〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2  
TEL/FAX：048-671-7708  
HP：<http://www.dream-hasegawa.com>  
blog：<http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>

---

★\*.....\*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリマンの物語」～感謝の風船ラブレター～

2014.08.13 vol.31

★\*.....\*★

---

☆ご あ い さ つ☆

---

残暑お見舞い申し上げます。

本日は旧盆の入りですが、  
皆様、いかがお過ごしですか？

私は茨城の実家にて、  
ご先祖様のお盆のお迎えをして参りました。

嫁いでもから毎年お盆やお正月は  
私の実家で親族と一緒に過ごしているのですが、  
いつの間にか今年で32年目になりました。

日本中に爪痕を残した先週の台風11号。  
今もなお、大変な思いをなさっている皆様に想うと  
こうして当たり前にお盆を向かえられることが、  
どんなに幸せなことかと痛感致します。

被害に遭われました皆様が一日も早く  
日常の生活に戻れますよう心から祈っております。

さて、本日に変更させていただきました  
「今を生きるスターリマンの物語」第10話の第3章  
～淵辺美紀氏のスターリマンへ宛てた感謝の風船レター～  
をお送りさせていただきます。

最後までお楽しみいただけると嬉しいです。

---

☆第10話 沖縄の架け橋になり公に生きる☆  
百名伽藍オーナー 淵辺 美紀 氏

第3章 ～淵辺美紀氏のスターリィマンへ宛てた感謝の風船レター～

---

二人のスターリィマンに感謝の風船レター

故郷を離れ、文化・習慣も全く違う沖縄に  
居を構えるようになり35年。

今でこそ多くの方が沖縄を魅力的に感じ、  
それに呼応するように沖縄出身の  
ミュージシャンや文化・芸能人が大活躍しています。

でも私が移り住んだ本土復帰直後の沖縄は、  
現在と環境が違い「ヤマトンチュー」「ナイチャー」  
という言葉で色分けされ、  
肩身の狭い思いをした時もありました。

そのような環境で起業、少しずつ仕事を増やしていき、  
知人友人のつながりも数多く出来ましたが、  
そこはやはり仕事、特に血縁関係を重視する沖縄では  
山あり谷ありの毎日でした。

そのような中、私の状況を見透かすように、  
東京のさる企業から傘下会社の代表にならないかという  
話を持ちかけられました。

当時はマスコミを賑わせ、躍進を続ける企業で  
魅力的な話でもありました。

でも、自分が作った会社はやはり捨てるがたく…と悩む中、  
上甲晃先生にご相談したところ、

「小さくても一国一城の主となったのだから、  
それを大事に気概を持ちなさい。  
鶏口となるも牛後となるなかれ、です」

と言われ、ハッと気づかされました。

厳しい環境から無意識に逃げようとしていた  
自分を諭す言葉でした。

厳しさから逃げてはダメ、  
自分が先頭に立たないとダメなのです。

上甲先生は灯りをともしてくれた  
大事なスターリイマンです。

また女性としてもお付き合いの長い櫻井よしこさん、  
超多忙なジャーナリストですが、  
100歳を超えたお母様を大事にお世話しながら、  
日本のため体を張っている姿は見習うべきものがあります。

「日本のためと動く以上、  
例え石を投げられ倒れてもやり続ける」

という強い信念は、まさにスターリイマン。

しなやかさと強さを教えてくれる  
大事なスターリイマンです。  
周りに一杯信念の光と温かさを放ってくれます。

二人のスターリイマンに心から感謝の思いで一杯です。

---

「今を生きるスターリイマンの物語」  
☆第11話 すべての生命が安心して生活できる社会の実現ために生きる☆  
NPO法人 テラ・ルネッサンス理事・創設者 鬼丸昌也氏

第1章 ～鬼丸昌也氏 との出会い～は、  
8月19日(火)配信予定です！

---

淵辺美紀氏の二人のスターリイマンへ宛てた  
感謝の風船レターはいかがでしたでしょうか？

夫の絵画活動30年を迎えるにあたり、  
これからスターリマンの作品を通して、  
日本中、世界中に夢を叶える9つの風船を届けながら  
世界中が家族のような温かいきずなをつないでいきたい。

そんな私たちの想いを聴いてくださった淵辺さんが、  
上甲晃先生をご紹介してくださった意味を  
今回の風船レターを拝見させていただいて、  
深く心に染み入りました。

淵辺さんの大切なスターリマンである  
上甲先生から受け取った志の風船を、  
今度は淵辺さんから私たちに届けていただき、  
お二人が私たちにとっての大切なスターリマンとなりました。

尊いご縁でつながっている日々に、  
感謝の気持ちでいっぱいです。

私たちも誰かのスターリマンになれるよう、  
これからも風船を届けていけたらと心から願います。

さて、次回から第11話として、  
すべての生命が安心して生活できる社会の実現ために生きる  
NPO法人 テラ・ルネッサンス理事・創設者 鬼丸昌也氏の  
「今を生きるスターリマンの物語」をお送りさせていただきます。

第1章の鬼丸昌也氏との出会いの配信は、8月19日(火)です。  
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

---

☆後 記☆

---

先週、5日の夜に開催された  
大阪新阪急ホテルでのコンサートにお越しくくださった皆様。  
本当にどうもありがとうございました。

コンサート当日の午前中は、淵辺さんからご紹介いただいた  
「KOBE・三宮ひと街創り協議会」及び  
「ザ・ファースト」の久利会長のご厚意により、  
協議会の会員の皆様や神戸市の教育委員会の方々に  
私たちの活動のお話をさせていただきました。

「KOBE・三宮ひと街創り協議会」の皆様は、  
阪神淡路大震災で支援して下さった沖縄の方々に  
感謝の気持ちを込めて、神戸空港が開港した2006年から  
心の交流を重ねていらしゃいます。

「KOBE夢・未来号」と題したプロジェクトでは、  
神戸市の神戸市内の養護施設の子ども達に  
沖縄の素晴らしい自然や文化や歴史に触れてもらう取り組みを  
続けてこられ、2014年度で第6回を迎えるそうです。  
<http://kobe-shmk.com/yumemirai>

そして、来年の1月に催行される「KOBE夢・未来号」に  
私達も参加させていただき、  
子ども達にスターリィマン紙芝居ライブを  
観ていただけることになりました。

阪神淡路大震災を経験した藤原さんが原点となり、  
沖縄で生まれたスターリィマン紙芝居が  
神戸の子ども達にお届けできるようになったこと。  
本当に嬉しく、有り難い気持ちでいっぱいです。

今回、淵辺さんが久利会長にご縁をつないでくださったことも  
上甲先生にご縁をつないでいただいた時のように、  
これからの未来にとって何か大きな一歩となるような気がしてなりません。

たとえどんな事があっても、たとえ険しい道だとしても、  
ひたむきに、前向きに、誠実に歩いて行きたい。  
そんな勇気の風船をいただきました。

それでは、本日もここまでお読みいただきまして  
誠にありがとうございました。  
また次回の配信日まで、皆様が笑顔でありますように…☆

はせがわ芳見

---

発信元：はせがわ芳見  
〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2  
TEL/FAX：048-671-7708  
HP： <http://www.dream-hasegawa.com>  
blog： <http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>

---